

令和 7 年度 事業報告 総括

令和 5 年度以降、職員を新卒採用できていませんでしたが、高校生 2 名から応募があり、人材採用において求職者が有利となる売り手市場と言われるなか、学生からの応募自体が大変嬉しく感じました。両名は採用試験や面接などを経て、しっかりした人物と確認し、無事採用することができました。将来を担う若者を採用できたことで、令和 8 年度は良いことがありそうな期待の持てる準備ができました。

しかし、社会情勢は外国の紛争や物価高騰、気候変動等の不安な要因が多く、その影響を希望の家も受けて多難な 1 年でもありました。なかでも電気やガスの光熱費並びに食材料費の値上がりが続き、施設や事業所運営に大きな影響を及ぼしました。作業面でも受注が不安定になったり、資材の調達が見通せない状況が続いたりしましたが、利用者が安心して施設等を利用できることが一番と念頭に置いて、利用者にしわ寄せがいかないよう対策を講じることに苦心しました。

利用者は共同生活や集団行動があるため、マスク着用や手洗いの励行など感染予防を継続して取り組みましたが、複数の入所利用者がノロウィルス及びインフルエンザに感染してしまい、感染症対策の難しさをあらためて痛感しました。その後は、感染者を隔離対応等行い施設内で感染を封じ込め、大きな感染拡大を防ぎました。

30 年以上に渡り長く施設入所されていた利用者 7 名を含めて 8 名の方が亡くなりましたが、入所者の選定や受け入れ準備等もあり、欠員をすぐ入所といかず、利用率が低下し、決算報告では事業収入が予算計上したほど確保できませんでした。しかし、令和 6 年度の報酬改定内容を再度検証して障害福祉サービス事業収入を増やし、物価高騰により支出が増える状況のなか経費削減等にも努め、なんとか黒字決算となりました。作業では、JSP 班は安定した生産数を確保し、年度末に例年同様特別工賃を支給しましたが、社会情勢不安定のため予断が許されません。さつき・日向ともリサイクル作業の減少やボンド作業が令和 7 年度で終了したため、新規作業確保が必要不可欠な状況です。

希望の家の利用者が 1 年で 8 名も亡くなることは初めてのことで、通所利用者の保護者だけでなく利用者本人も高齢となる方が増えて、親亡き後の相談も増えています。通所利用者の将来を見越して鹿沼ハウス等の入所施設やグループホームへスムーズに入所利用できるよう配慮してきました。

職員においては、採用 8 名、退職 10 名となりました。退職の理由については、再雇用や再々雇用の職員が年齢や体力低下によるものや、新しい道に進みたいという理由で転職した方もいました。利用者支援に欠かせない支援員の確保は大変重要であり、採用手段の多様化を図り、今後も支援員確保に取り組んでいきます。

障害者虐待防止及び身体拘束の適正化等の権利擁護の徹底に加え、感染症流行時や非常災害時の事業継続計画（BCP）の委員会を立ち上げる等して取り組んでいますが、まだ十分でない部分も散見されるため、あらためてきちんと向き合い、継続して取り組みながら内容を充実させていきます。また、地域連携推進会議の開催が義務化され、入所施設及びグループホームで開催し、自治会長や住居の家主等の地域の方々に施設やグループホームを見学後、貴重な意見をいただき今後活かしていきます。